

# 大気中の窒素を植物に有効利用



- 収穫物の生産性と品質の向上に -



2026年新パッケージ

標準施用 50アール分



公式マスコット  
チッピーくん

水稲やその他の作物に



酷暑対策



収穫物の品質向上

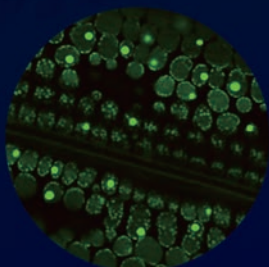
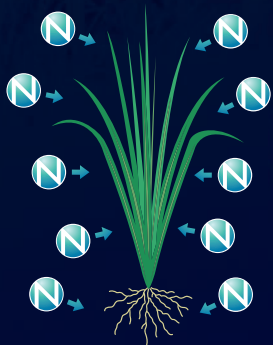


作物の生産性向上



肥培管理プログラム

葉から、植物体内に入り  
空中窒素を供給!



植物細胞内に  
定着したGD  
(明るい点)

窒素固定菌 **Gd** ※ とは?

※グルコンアセトバクター・ジアゾトロフィカス

サトウキビから分離された微生物Gd  
空気中の窒素を植物細胞内の隅々で固定し、  
利用可能な形に変えることができるバクテリアです。

※これまでに知られた窒素固定菌とは異なり、植物細胞内にも共生し、  
植物が窒素を必要とする場所(例えば葉緑体)で窒素を正確に固定します。

- Gdは根、茎、気孔等を通じて植物体内に入ります。
- Gdは植物と共生関係を築き、窒素の供給をサポートします。



# 植物が窒素不足になった時に、 効果を示す新資材！ 窒素過多になる心配ナシ！



## 水稲への施用例

低品質米に至るメカニズム

高温・日照不足

光合成の低下

アミノ酸合成障害

低品質米

エヌキャッチの施用

空中窒素の利用

でんぷん合成酵素を生産

乳白・未熟粒改善への期待

播種機で

(種子処理)



播種機の灌水装置への適用

育苗時処理で

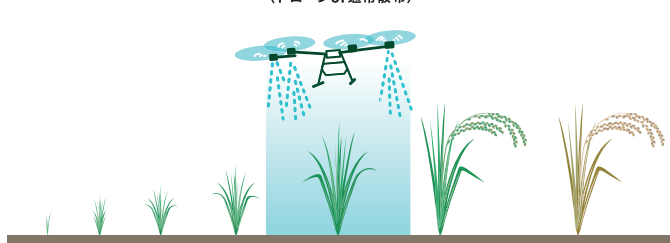
オススメ



緑化初期～田植え3日前までに灌注

本圃処理で

(ドローンor通常散布)



幼穂形成期～出穂期散布

## 使用方法

農薬などの散布水量に準じて、本製品の必要量を水で希釈してください。

水稲(移植)	<b>オススメ</b>	育苗：播種同時処理(播種機での灌水処理) 緑化初期～田植え3日前まで(苗箱処理)灌注※	葉面散布 1～2回
水稲(直播)		本圃：田植え後45日～出穂期 播種後15～30日(苗立ち期) 播種後60日～出穂期	
たまねぎ、とうもろこし、てんさい	50aあたり 6.25g(1袋)	3～8葉期	
麦類、豆類	※ドローン散布 水800mlに 1.25g/10a	3葉期～出穂期・開花期 ※降雪地帯の秋まき小麦の場合 起生期(茎立ち期)以降	
ばれいしょ	(水4Lに1袋 6.25g/50a)	萌芽期～塊茎肥大初期	
野菜類		生育初期(本葉展開期～8葉期)	
ぶどう		5葉期～果実肥大初期	
その他の果樹類		萌芽期～果実肥大初期	

※殺菌剤との混用不可、殺虫剤との混用は可。 ※非イオン系展着剤との混用がより効果的です。  
※混用についての詳細は弊社までお問い合わせください。

## 製品概要

容量	1袋 6.25g 入り(標準施用で50アール分)
施用方法	葉面散布、種子浸漬、水耕栽培培養液など
施用時期	移植前(苗に散布)、移植後の生育期
施用回数	1回(基本)～複数回



## 水稲(播種・育苗時)の灌注処理方法※

使用方法	10アール分の苗箱に対して、 1.25gを水に希釈して散布 ※箱あたりの水量目安 播種機施用時：1～1.5L/箱 緑化後灌水時：250～500ml/箱		
使用例 (1袋 6.25g)	播種密度	慣行	約100枚/50a
		疎植	45～65枚/50a
	定植密度	慣行	30～40枚/50a
		疎植	30～40枚/50a

窒素ゼロの  
培地での実験

無処理は  
10日後に死滅

Gdを処理した  
水稲苗



## 取り扱い・保管上の注意

- ・説明書をよく読み、対象作物、使用量、時期、回数などの使用方法を守り、記載内容以外に使用しないでください。
- ・直射日光を避けて建物内の冷暗所(20℃以下)に保管してください。

## 使用上の注意

- ・散布は日中高温時を避け、風の強くない朝夕の涼しいときに行ってください。
- ・豪雨や強風の条件下では施用しないでください。
- ・他資材とタンク内混合を行う場合は、必ず最後に混合してください。
- ・開封後は製品の劣化が始まりますので、保管せず使い切ってください。

